

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 泰山木

日付 平成 20年 9月 10日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

今回、このホームを訪れたのが2回目であるが、何となく“人間味”を感じる。何故だろう。ホーム全体として派手さや賑やかさは殆んどない。一人ひとりの利用者はリビングルームのテーブルに座っているだけなのに、そして、黙々と塗り絵をしてたり、真田織の紐を作っている。2人、3人と利用者同士それぞれと話している。そこに職員が一寸話しの相手をしている。2階のユニットの利用者は少し活発な人が多く、下のユニットに職員と一緒に訪れる人もいる。こちらにも友達がいるので、時々会いに行くそうだ。外出したり、行事で一緒になって、両ユニットの利用者の交流もできている。それでも普通の静かなホームである。

よくよく観察してみると、ここにいる職員の存在が、利用者の生活の中に何となく人間味を漂わせているような気がする。職員も何かをする、利用者に積極的に働きかけているのではない。しかし、利用者が必要とする時、あるいは利用者の素振りや一寸した動きの中に自然に職員の姿があるような気がする。利用者と職員が存在する自然さが、家族のような存在感と利用者の安心感、満足感を生み出し、“人間味”を漂わせているのではないかと思った。このホームでは、新聞のチラシ等を使って、真田織の紐から色々な家具や道具を作り、職員も手伝って立派な商品作りをしている。それをバザーで売りに出して小遣いを得て、利用者が楽しみを得るそうだ。多くの利用者が自分の役割を分担して、一つの大きな作品に集結するという、それぞれに“自分らしさ”を発揮していることもあるだろう。塗り絵や絵を描くことを得意としている人もいて、自分の作品に自信を持っている。その人のギャラリーコーナーも設けられており、本人も嬉しそうである。

「うちの職員は、皆真面目で勉強してくれます。常勤の職員が主体ですが、非常勤の人と一緒にあって利用者を支援してくる気持ちは全く変わりません。特養ホームでも、デイサービスでも、このグループホームでも、職員は皆同じです」と理事長は胸を張って説明してくれた。職員は3年間の経験から介護福祉士や色々な資格取得に挑戦するそうだ。

法人の基本理念に「初めに利用者ありき、そして、絶えず利用者に立ち戻りつつ、利用者主体の人生を、半歩下がって共に歩もう」を掲げ、法人全体で利用者の個々の「生」を尊び、精神・身体の両面から全人生を支え、共に生きて、縁由深い社会の実現を全職員で目指している。この考え方を、職員が日々の行動一つひとつに現場で生かしている姿が、ホーム開設以来3年余りであるが、一貫してブレることなく続いている。この姿が、ホーム全体として“人間味あふれる生活”を自然に醸し出しているのだと確信した。

特に改善の余地があると思われる点

職員の利用者や家族に対する“気づき”を大切にしている。日常の会話の中から、利用者や家族のビジュアルな表現で記録に残しておく、その時々の様子が目に浮かぶように伝わってくる。利用者にとっても、ホームの生活が貴重な人生史として残るだろうと思うので、記録の仕方、そしてその活用法を少し考えて見ては如何だろうか。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…法人全体で共通する基本理念があり、それを実現するためにグループホームの目標を定め、ケアの考え方を職員でしっかり共有している。職員の行動から利用者に対する思いや気付きが伝わってきた。</p> <p>2. 全体的に見て…法人全体の共通理念が本当に職員に理解されているのか代表者自身が心配になり、皆で考え直してはと職員に話したが、やはりホームが立ち上がった時の初心を大切にしたいという職員の思いから、そのままの理念をより理解できるよう解説を付け、職員が共有することができた。</p> <p>代表者は、職員たちは皆真面目で、良いスタッフが育っていると胸を張って話してくれた。代表者 管理者 職員は日常から意思疎通ができており、皆で話し合って決めようとする気風が、職員の意識を高めていると思う。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…設立時に設計されたハード面での生活空間は、3年余りの年月に経過すると、そこに住む利用者と職員の生活から醸し出した人間味溢れるソフト面の空間が生きてきた。ここから、安心して暮らせるホームができたのだろうと思う。</p> <p>2. 全体的に見て…新聞のチラシ等を活用して真田織の紐を活用して作る家具や道具が生活空間の中に存在している。この作品作りは利用者の趣味でなく、利用者と職員が共同で行う仕事であり、この作品を母体の瀬戸内祭りのバザーで販売し、そのお金で利用者が楽しめる資金にするそう。去年は皆でラーメンを食べに行ったそうだが、「さあ、今年も又皆で作ろう！」と目標を持って取り組んでいる。生活に目標を持てることは大変良いことだ。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…設立して3年経過して、今年度は介護計画の作り方について見直してみようと考えている。特に介護項目の設定の仕方とその実施した成果を見出すためのモニタリングについて考え、計画作成と記録について改善し、ケアのあり方に波及する効果を見出すべく取り組んでいる。介護全般に亘って、何事も抽象的な見方をしてきた業界のやり方にメスが入れば良いと期待している。</p> <p>2. 全体的に見て…ホームに入所した時は、言葉も表情もなく寝たきり状態だった利用者が、表情も豊かになり、よく喋ってくれる。お洒落をして、車椅子でも自走するまでになった。食べられなくなり、歩行も困難だった90歳の利用者をもうダメかと心配したが、職員は諦めず気長に対応した結果、4ヶ月目に食事が摂れるようになり、自力で歩行ができるまでになった。他にも多くの人が人間回復して、明るく生活できるようになった。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…ホームの運営については、現在までに実施してきた各項目に改良を加えてケアとサービスの質の向上に努力していこうとしている。運営推進会議は参加する委員も増やし、地域とのつながりを密にして、会議の雰囲気を楽しみながら、開催回数も増やして運営に生かせるよう考えている。</p> <p>2. 全体的に見て…法人全体の運営会議を毎月1回開催して、法人内の共通認識を深めながら運営体制の強化をしている。</p> <p>利用者の一番の楽しみは食事である。ユニット毎に食事の献立は別々に立案して職員と利用者で調理をして、食事を楽しく味わっている。食事時間は利用者と職員は家族のような雰囲気で話をしたり、助け合ったりしながら過ごしている。職員も上下のユニットを行き来して、お互いに食材や道具を融通し合いながら協力もしている。気持は家族、ケアはプロの意識を実感した。</p>		